

苦悩の意味

ヴィクトール・フランクル

勝田茅生翻訳

河原理子補訂

フランクルが、強制収容所から解放されたあと最初に出した本『医師によるメンタルケア Ärztliche Seelsorge』(1946年)のなかの「苦悩の意味 Vom Sinn des Leidens」の部分を、最終版(2005年)に基づき、著作権者の許可を得て日本語に翻訳しました。

日本ロゴセラピスト協会は、2023年に「フランクルを読む会」を9回開き、この「苦悩の意味」について、勝田会長がレクチャーし、参加者が疑問や経験を出し合って、学びを深めました。

„Ärztliche Seelsorge” は、日本では『死と愛』(霜山徳爾訳、みすず書房、1957年、2019年新版)、『人間とは何か 実存的精神療法』(山田邦男監訳、岡本哲夫・雨宮徹・今井伸和訳、春秋社、2011年)の題名で出版されています。『死と愛』は原著第6版、『人間とは何か』は第11版=最終版に基づき翻訳されたもので、最終版は大幅に加筆されています。

Viktor E. Frankl: “Vom Sinn des Leidens”, In:
Viktor E. Frankl: Ärztliche Seelsorge. Grundlagen der
Logotherapie und Existenzanalyse, Revised edition (2005)
© Deuticke im Paul Zsolnay Verlag Wien 1982 and 2005